

流行の情報拡散における権力の影響に関する実証的 検討

伊勢 友香

流行の情報伝達が行われる時に、情報を伝達する人が持つ権力によって情報の広がりなどには差が生じるのだろうか。本研究で用いる権力は、交換比を自己に有利な方向に変化させる能力と定義している。情報伝達に関して Emerson (1972)から、2者関係を築いていると権力が生じることが示されている。また高橋・山岸 (1997)では、同じ人数のネットワークであっても、ネットワークの形によって権力の生じ方が異なることをシミュレーションの結果から示している。一方、流行の情報伝達の影響を調べた Watts & Dodds (2007)では、情報伝達において影響力のある人が重要ではないということをシミュレーションの結果から示している。

本研究では、流行の情報伝達において権力の影響について実証的に検討することを目的とした。また、先行研究のようなシミュレーションや数理計算による理論的検討の結果ではなく、実証的に妥当であるのかを明らかにする。質問紙実験は、大東文化大学の学生を対象とし、場面想定にシナリオを用いた。シナリオでは、同じ人数で構成された2つのネットワークの形を作成し、流行の情報伝達をしている場面を想定してもらった。その上で、情報の参考度や重要度、情報を聞く人の印象などを聞いた。

質問紙実験から、2者間における情報の伝達において、権力が生じることが明らかになった。しかし、権力が大きい人の情報を参考にすることや重要だと思ふことはなかった。